

第6次貝塚市総合計画 (基本構想素案)

令和8年1月

目次

第1部 はじめに	1
第1章 この計画について	2
1 計画策定の目的	2
2 計画の構成と期間.....	2
第2章 貝塚市を取り巻く現状と課題	3
1 貝塚市のこれまでのまちづくり	3
2 貝塚市の概要	5
3 社会の潮流と貝塚市の現状、今後必要となる視点.....	6
4 第5次貝塚市総合計画における主な取組	14
5 市民の声.....	17
第2部 基本構想.....	21
第1章 貝塚市の将来の姿.....	22
1 めざすまちの将来像	22
2 目標人口(人口ビジョン)	22
3 まちづくり目標と推進方策.....	23

第1部 はじめに

第1章 この計画について

1 計画策定の目的

貝塚市では、総合的なまちづくりの指針として、平成28年（2016年）に「第5次貝塚市総合計画」を策定し、「魅力かがやき 未来へつなぐまち 貝塚」をまちづくりの方針として、施策に取り組んできました。

この間、将来の予測が困難な時代と言われる中、大阪北部地震や能登地震、台風や風水害などの発生や、令和2年（2020年）からの新型コロナウイルス感染症拡大など私たちの生活の安全を脅かす出来事が多発しています。また、持続可能な開発目標（SDGs）¹の浸透や、脱炭素社会²を目指す取組など、環境面への注目が高まっています。一方で、東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博の開催や、インバウンド³需要の増大により、国際的な交流が活発になるとともに、デジタル技術の進展による暮らしの変化や価値観の多様化など、社会情勢も大きく変化してきました。

貝塚市においても人口減少・少子高齢化が加速しており、将来にわたり持続可能なまちを目指すためには、市民の誰もが暮らしの中で幸せを実感できるまちづくりを進める必要があります。そのため、これからの時代に対応しながら、市民と行政がともに進めることができる新たなまちづくりの指針として、第6次貝塚市総合計画を策定します。

2 計画の構成と期間

総合計画は、「基本構想」「基本計画」により構成します。また、人口減少対策などに特化した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容を包含したものとして策定します。

① 基本構想（12年間）

まちづくりの基本的な目標や枠組みを示すもので、本市の将来像や分野ごとのまちづくりの目標を定めます。

② 基本計画（4年間×3期）

基本構想に基づき、将来像の実現に向けた施策の目標と具体的な事業展開の方向性を定めます。

③ 総合戦略（4年間×3期）

基本計画に基づく施策・事業のうち、人口減少対策等に特化した取組です。

■第6次貝塚市総合計画の構成と計画期間

R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035	R18 2036	R19 2037
------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

基本構想（12年）

前期基本計画（4年）

中期基本計画（4年）

後期基本計画（4年）

¹ 持続可能な開発目標（SDGs）：2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成される。

² 脱炭素社会：地球温暖化・気候変動の原因となる温室効果ガスのうち排出量の多い二酸化炭素（CO2）について、実質的な排出量ゼロを達成している社会のこと。

³ インバウンド：外国から日本を訪れる観光客などのこと。

第2章 貝塚市を取り巻く現状と課題

1 貝塚市のこれまでのまちづくり

本市では、昭和 46 年(1971 年)に第 1 次総合計画基本構想を策定して以降、平成 28 年(2016 年)に策定した第 5 次総合計画まで、4 度の改定を行ってきました。

この間、関西国際空港の開港(平成 6 年(1994 年))や、二色の浜パークタウン(平成元年(1989 年))や東山丘陵地(平成 20 年(2008 年))のまちびらきなどにより、第 3 次総合計画期間まで総人口はおおむね右肩上がりに増加してきましたが、平成 21 年(2009 年)頃をピークに減少に転じています。

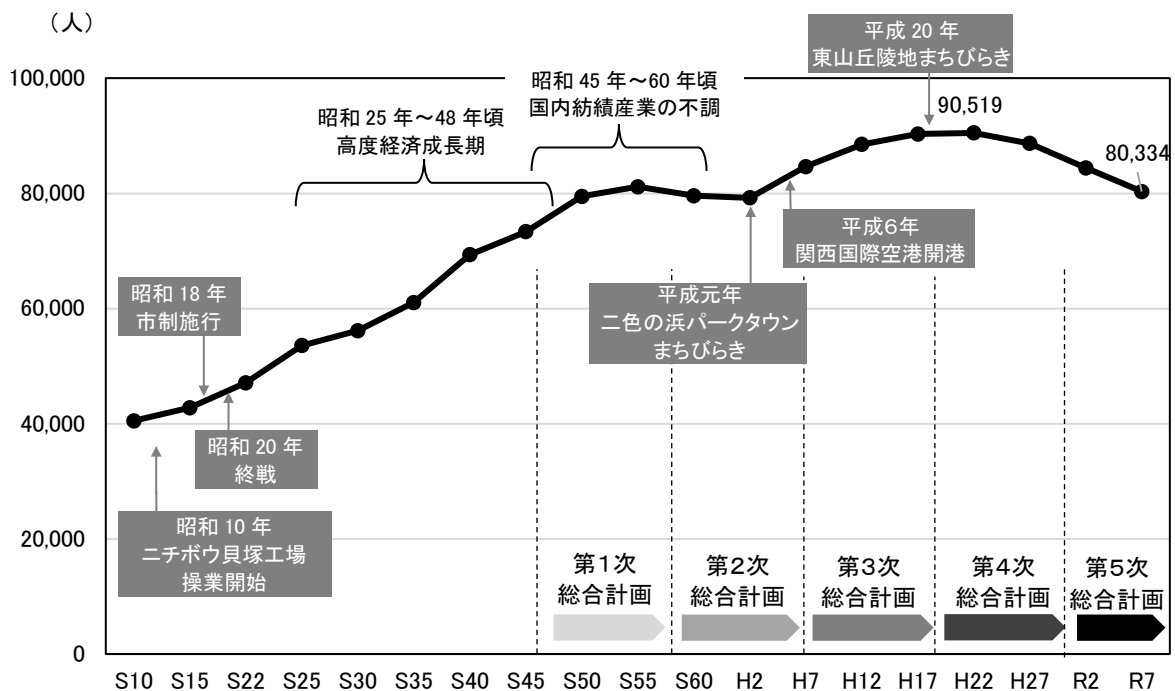
第 5 次総合計画では、「魅力かがやき 未来へつなぐまち 貝塚」をまちづくりの方針として、子どもたちが夢と希望を持って大きく成長できる未来へとつながるまちづくりを推進してきました。転入・定住促進策や結婚、子育てへの支援、産業・観光振興などに取り組んだことにより、社会減は改善されつつありますが、引き続き、人口減少の傾向が続いています。

■貝塚市のこれまでのまちづくり

総合計画	将来像	まちの変遷
第 1 次総合計画 昭和 46 年 (1971 年)	緑豊かな生活都市の創造 地域の特性に応じた発展をめざし、市民生活、土地利用、都市施設の将来を構想する。	(S47) 第二阪和国道 貝塚市内供用開始、貝塚駅南地区再開発第一工区竣工 (S46~51) 市立幼稚園 4 園、保育所 1 園開設 (S52) カルバシティ寄贈「友情の像」除幕式 (S53) 暴力排除都市宣言 (S55) 貝塚市民福祉センター開設
第 2 次総合計画 昭和 58 年 (1983 年)	豊かな自然と共存する産業文化都市の創造 ①快適な居住都市の創造 ②連帯に基づく福祉都市の創造 ③個性豊かな文化都市の創造 ④活力ある産業都市の創造	(S58) 核兵器廃絶・平和都市宣言 (S59) 貝塚市立総合体育館オープン (S62) 関西国際空港起工式 (H 元)「二色町」まちびらき、市民図書館・浜手地区公民館開館、市の木「カイツカイブキ」・市の花「コスモス」選定 (H2) 阪和自動車道開通 (H3) 山手地区公民館開館 (H4) 善兵衛ランド・産業文化会館開館 (H5) 市制 50 周年、コスモシアター・自然遊学館開館、市民の森開設 (H6) 第 1 回泉州国際市民マラソン開催、府道貝塚中央線全線開通、関西国際空港開港
第 3 次総合計画 平成 7 年 (1995 年)	であい ふれあい ひろがるまち・かいづか 活力あふれる住みよい交流都市の創造 ①美しく暮らしよい環境充実都市 ②心豊かに支え合う健康福祉都市 ③人を育て文化を発信する生活文化都市 ④活力ある開かれた産業創造都市	(H7) 保健(福祉)合同庁舎開設 (H8) 市立貝塚病院全面改築 (H10) 貝塚市立子育て支援センター開設、第 1 回市民スポーツの日開催 (H12) ほの字の里開設、三ヶ山配水場・三ツ松受水場設置 (H14) 貝塚市ホームページ開設 (H15) は～もに～ばす運転開始 (H16) バレーボールのまち推進事業開始

第4次総合計画 平成 18 年 (2006 年)	元気あふれる みんなのまち 貝塚 ①市民の元気あふれるまち ②産業の元気あふれるまち ③自然の元気あふれるまち	(H18) 岸和田市貝塚市クリーンセンター移転・稼働開始、木積ポンプ場設置 (H20) 東山まちびらき (H22) 市立東山小学校開校 (H24) 貝塚市イメージキャラクターつげさんデビュー (H25) 貝塚市教育研究センター開設
第5次総合計画 平成 28 年 (2016 年)	魅力かがやき 未来へつなぐまち 貝塚 ①心豊かな人が育ち ふるさとに誇りと愛着を感じるまち ②誰もが地域で健やかに ともに支え合うまち ③みんなでつくる 安全・安心で快適に暮らせるまち ④ひとと地域の資源を生かし にぎわいを生み出すまち ⑤市民とともに紡ぐまちづくり	(H28) 水間寺愛染堂「恋人の聖地」として登録 (H30) ドローンフィールド供用開始 (R2) ドローン・クリケットフィールドとしてリニューアル (R3) 台湾台中市北区友好交流協定締結 (R4) 新庁舎供用開始 (R5) 市制施行 80 周年 (R6) 義務教育学校市立二色学園開校

■総合計画の計画期間と人口推移



資料: 統計かいつか(国勢調査、令和7年は本市推計人口1月末)

2 貝塚市の概要

① 位置、交通

本市は、大阪市の中心部から南に約 30km、鉄道で約 30 分の距離にあり、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置します。市域面積は 43.93 km²であり、東西に約 4.8km、南北に約 16.0km の細長い地形を有し、北は大阪湾、南は和泉葛城山を経て和歌山県紀の川市と接しています。

山から海にかけての多彩な地形には、国の天然記念物に指定されているブナ林を育む和泉葛城山や、白砂青松の二色の浜、市内を縦貫して流れる近木川など、優れた自然環境を有しています。

交通面では、関西国際空港に近接し、鉄道では南海本線、JR 阪和線、道路では阪神高速道路湾岸線、阪和自動車道、国道 26 号および 170 号などの充実した広域交通体系で周辺地域と結ばれるとともに、水間鉄道が市内の骨格を形成する公共交通としての役割を果たしています。

② 沿革

本市は、奈良時代に創建された水間寺や中世の自治都市であった寺内町などの歴史的資源、太鼓台やだんじり祭りなどの伝統行事を受け継ぐとともに、つけ櫛などの伝統産業、近代以降に発展した繊維・ワイヤロープといった地場産業など、独自の文化と産業を持ったまちです。

明治 22 年(1889 年)の町村制施行時に貝塚町が誕生し、昭和 6 年(1931 年)に麻生郷村、島村、南近義村、北近義村と、昭和 10 年(1935 年)に木島村と、昭和 14 年(1939 年)に西葛城村と合併し、昭和 18 年(1943 年)に貝塚市が誕生しました。

3 社会の潮流と貝塚市の現状、今後必要となる視点

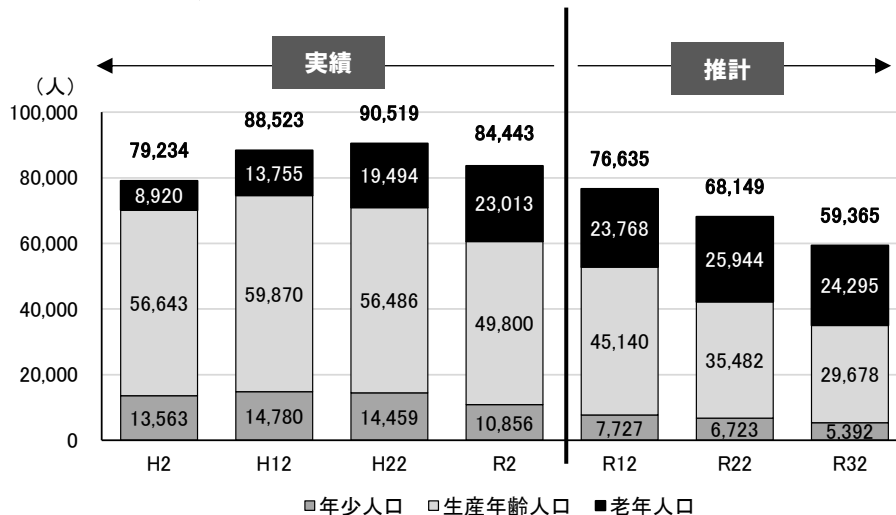
(1) 社会の潮流と貝塚市の現状

① 人口減少・少子高齢化の進行

日本の人口は平成20年(2008年)をピークに減少を続け、少子高齢化も加速しています。出生数の減少は予想を上回るペースで進み、令和6年(2024年)の出生数は、過去最低の72万人台となり、将来的な労働供給の減少、経済成長率の低下、現役世代の負担の増加、行政サービスの水準の低下など、社会経済に影響を及ぼすことが懸念されます。また、特に地方では若年層の流出が進み、地域社会の維持が困難になるケースも増加しています。国の推計によれば、令和7年(2025年)には団塊の世代の全員が75歳以上となり、今後、高齢者支援や医療・介護の需要がさらに増大することが予想されます。一方で、リモートワーク⁴が浸透したことなどにより、若い世代の地方移住や複数の生活拠点を持つ二地域居住などもみられはじめています。このような状況の中、全国の市町村では、結婚や子育てに対する支援策や移住促進施策の強化を図ることで、人口減少に歯止めをかける取組を進めており、働き手不足の課題に対しては、外国人労働者の受け入れやシニア層の活躍推進といった取組が必要とされています。

貝塚市でも、平成21年(2009年)頃をピークに人口減少に転じ、令和32年(2050年)には、6万人を下回ると予測されています。人口減少社会においては、働き手の不足による社会全体の生産性向上や地域コミュニティの維持が重要な課題となります。

■人口の推移と将来推計(貝塚市)

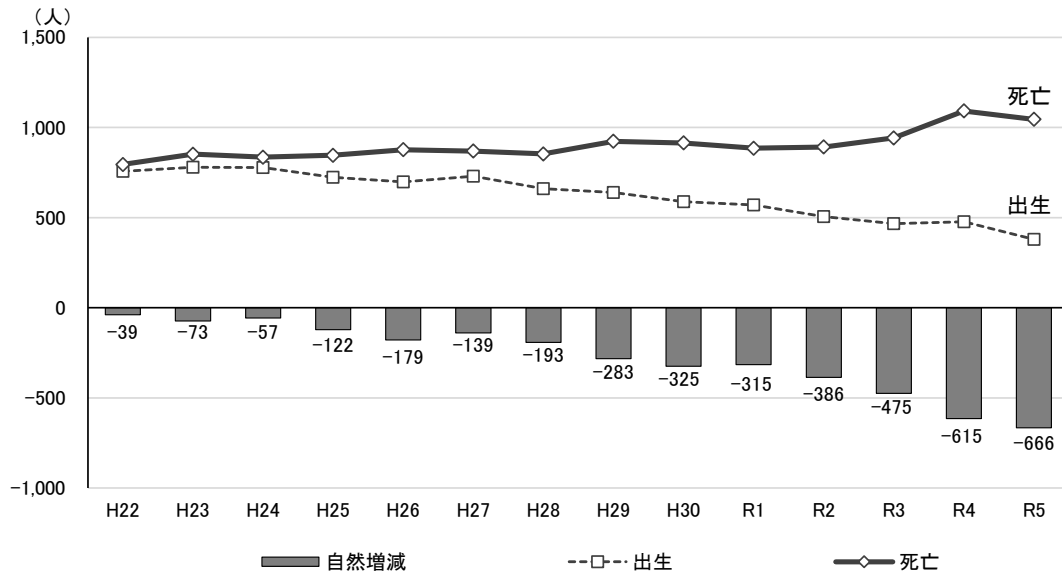


資料:(実績)国勢調査、(推計)国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

⁴ リモートワーク: 自宅など会社以外の場所で業務を行う働き方のこと

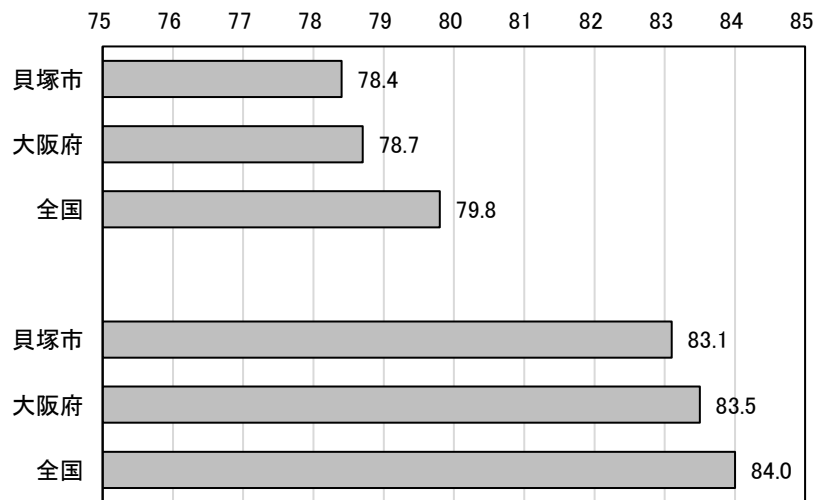
出生数が死亡数を下回る自然減が続いており、減少幅は増加傾向にあります。本市の健康寿命は、全国、大阪府と比べ男女ともに短く、健康寿命を延ばしていく必要があります。

■自然増減の推移(貝塚市)



資料:住民基本台帳、外国人登録

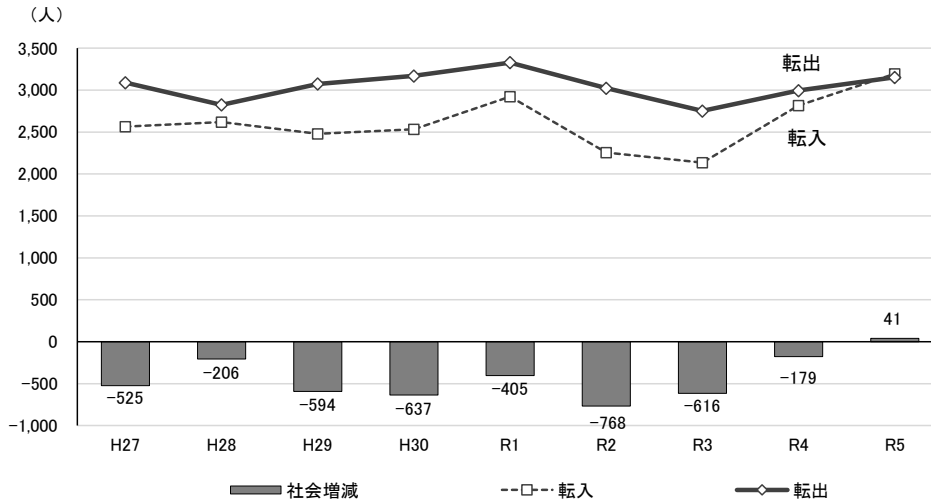
■貝塚市・大阪府・全国の健康寿命



資料:令和4年健康寿命

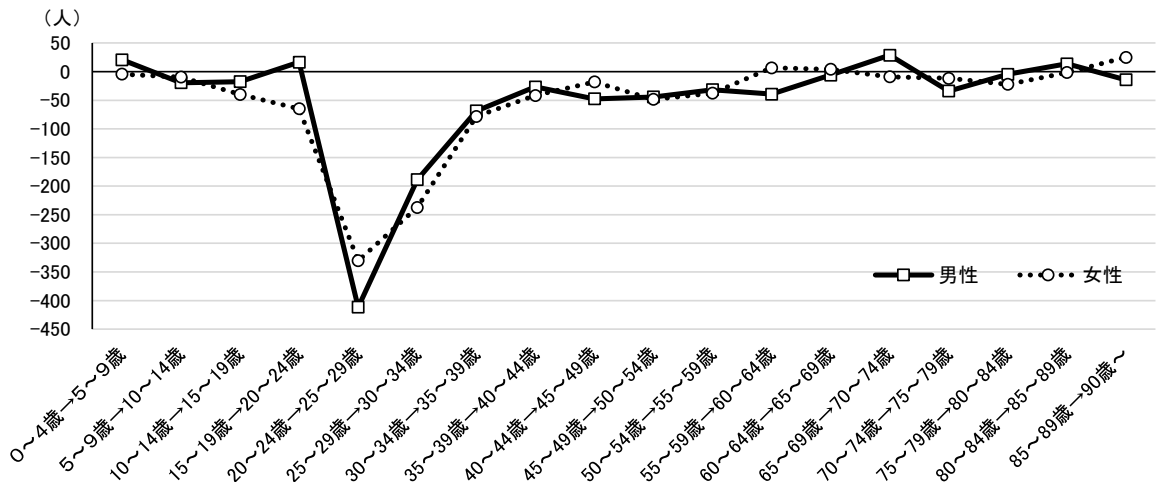
社会増減について、若年層の転出超過が縮小しつつあり、近年大きく増加している外国人口の増加傾向を含めて、社会増に転じています。一方で進学・就職に伴う20代の転出超過は続いており、若い世代が住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりが必要です。

■社会増減の推移(貝塚市)



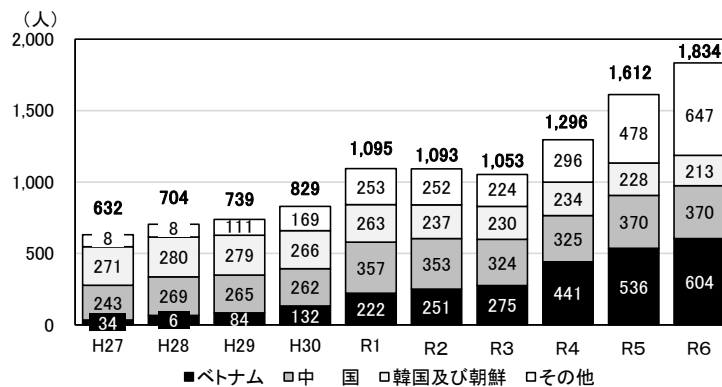
資料: 住民基本台帳、外国人登録

■性別・年齢階級別人口移動の状況(貝塚市)



資料: 住民基本台帳、外国人登録(令和2年9月→令和7年9月)

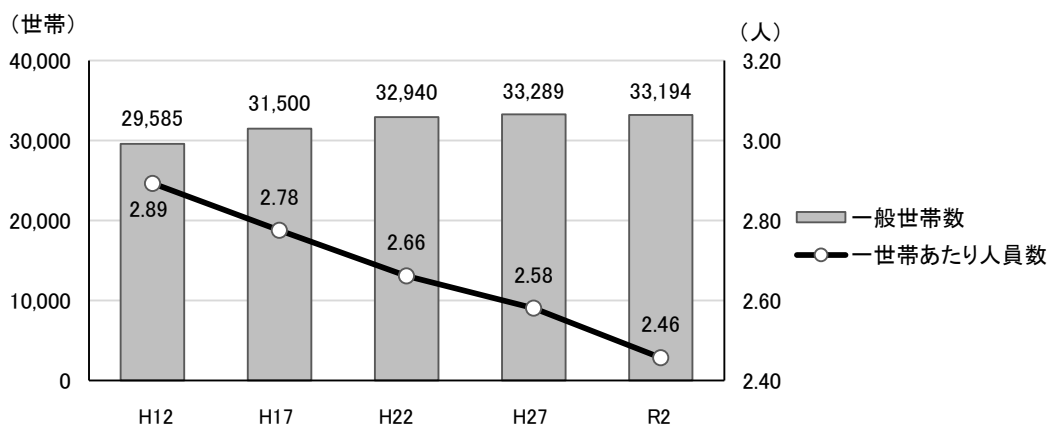
■外国人人口の推移(貝塚市)



資料: 市民課(各年12月末現在)

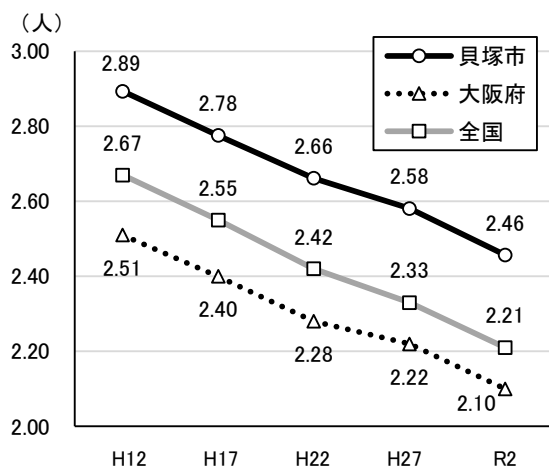
核家族化や少子高齢化、ライフスタイルの多様化などにより家族形態が変化しており、1世帯あたりの人員が減少し、単身世帯が増加しています。特に高齢者独居世帯の増加が顕著となっており、従来の地域社会における助け合いの仕組みが維持しにくくなっています。住民主体の地域づくりや、行政・企業・NPOの連携によるまちづくりが今後の重要な課題となっています。

■世帯数と1世帯あたり人員数の推移

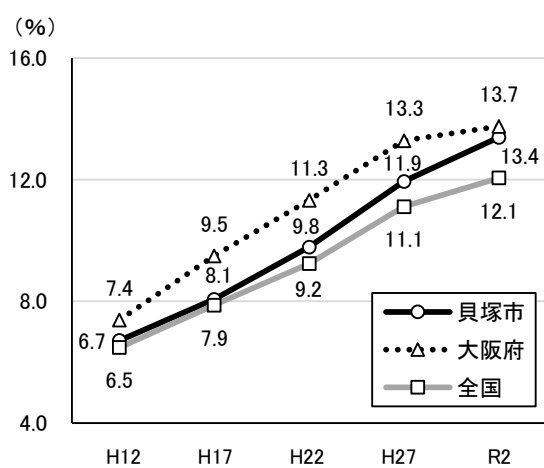


資料:国勢調査

■1世帯あたり人員数の推移の比較



■高齢者独居世帯の割合の比較



資料:国勢調査

② 防災・災害対応の重要性

気候変動の影響などにより、豪雨や台風、地震などの自然災害が頻発化・激甚化しており、特に都市部を中心に浸水リスクの増大や老朽化したインフラの脆弱性が指摘されています。ハザードマップ⁵の整備や避難計画の強化を進めるほか、デジタル技術を活用した防災情報の提供など防災・減災に向けた取組が急務となっています。

貝塚市でも平成30年(2018年)9月の台風21号により、家屋の屋根、壁などが吹き飛んだり、断水、停電が発生するなど大きな被害を受けました。また、近い将来、南海トラフ地震における大きな被害も想定されています。

引き続き、市民の防災意識の向上や地域の防災力強化が大きな課題となります。

■南海トラフ地震の被害想定

地震の規模		(M)9.1	
		大阪府下	貝塚市
震度階級		5弱～6強	5強～6弱
建物全壊棟数(棟)		18万	692
建物半壊棟数(棟)		46万	4,307
出火件数(件)		272	2
死者数(人)		133,891	442
内訳	建物倒壊等による	924	5
	津波による	132,967	437
負傷者数(人)		90,600	886
内訳	建物倒壊等による	26,655	192
	津波による	63,945	694
避難所生活者数(人)		118万	8,378
罹災者数(人)		182万	12,773
ライフライン関係	停電軒数(軒)	209万	19,280
	ガス供給停止戸数(戸)	115万	456
	水道断水影響人口(人)	832万	58,699
	電話不通回線数(回線)	76万	14,000

※迅速に避難を開始することにより、津波による死者数、負傷者は0人になると想定されている。

資料:平成26年(2014年)1月 大阪府発表

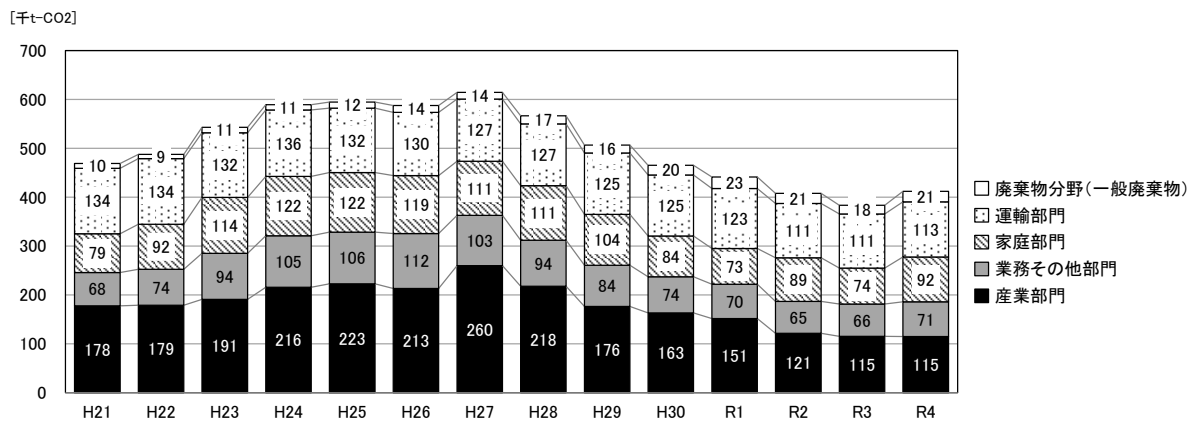
⁵ ハザードマップ:自然災害による被害の軽減や防災対策のため、被災想定区域や避難場所・避難経路、防災関係施設の位置などを表示した地図。

③ 環境問題への対応

地球温暖化や異常気象の影響が深刻化する中で、脱炭素社会の実現に向けた取組が進められています。国では令和2年（2020年）に「2050年カーボンニュートラル⁶」を宣言し、再生可能エネルギー⁷の導入や省エネ施策の推進を強化しています。企業ではGX（グリーン転換⁸）の推進への関心が高まり、ESG投資⁹やSDGsの視点も重視されており、環境対応は経済成長と両立すべき重要な課題となっています。

貝塚市では、第5期貝塚市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）と（区域施策編）を策定し、再生可能エネルギーの利用拡大などにより、温室効果ガスの排出量削減を加速させ、市域全体における脱炭素化の推進を目指しています。

■部門・分野別 CO2 排出量の推移(貝塚市)



④ デジタル化・DXの進展

デジタル技術が急速に進化し、社会全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速しています。リモートワークやオンラインサービスの普及が進んでおり、行政手続きのオンライン化や情報格差の解消が必要となっています。貝塚市では、貝塚市スマートシティ基本構想を策定し、まちづくりのあらゆる分野において未来技術を活用し、地域の課題解決および魅力向上につなげていくことを目指しています。

⁶ カーボンニュートラル: 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。

⁷ 再生可能エネルギー: 太陽光や風力、地熱、バイオマスといった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのこと。

⁸ GX(グリーン転換): 温室効果ガスの排出削減を目指す取組を経済成長の機会と考え、産業競争力の向上や、社会全体の変革につなげようとする活動のこと。

⁹ ESG投資: Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治)に対する企業の取組を評価基準として投資先を選ぶ投資方法のこと。

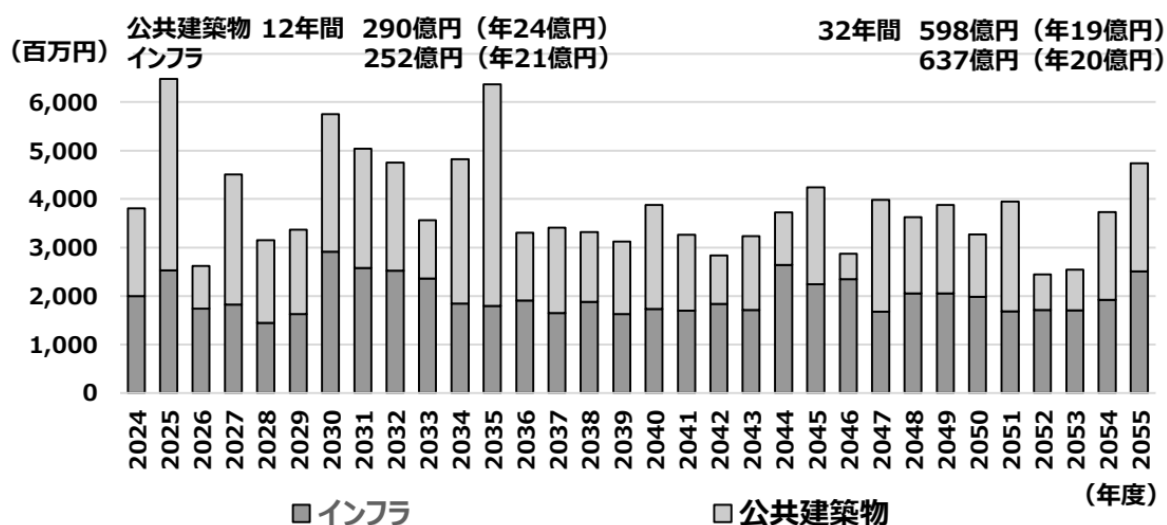
(2) 今後のまちづくりに必要となる視点

① 持続可能なまちづくり

老朽化した都市インフラの維持管理が大きな課題となっており、公共施設や道路、上下水道の修繕・更新が必要とされる中で、貝塚市においても公共施設等総合管理計画等を策定し、長期的視点を持って、公共施設の更新や統廃合、集約化、長寿命化など、限られた予算の中で計画的な管理を目指しています。今後は、市単独での取組だけでなく、他の自治体と連携して、公共施設の集約化・共同利用や長寿命化に取り組むことも検討が必要です。

また、公共サービスの効率化や民間のノウハウの活用、デジタル技術の活用など、財政の健全化に向けた取組が必要です。さらに、持続可能な形で市民生活を支えていくためには、国や府、市町村などと、それぞれが有する人材や地域資源を共有し、共同で活用していく広域連携の強化や、コミュニティ組織、NPO、企業といった地域社会の多様な主体が連携・協働する官民連携などのさらなる推進が必要です。

■公共施設等(公共建築物およびインフラ資産)の更新費用の見通し



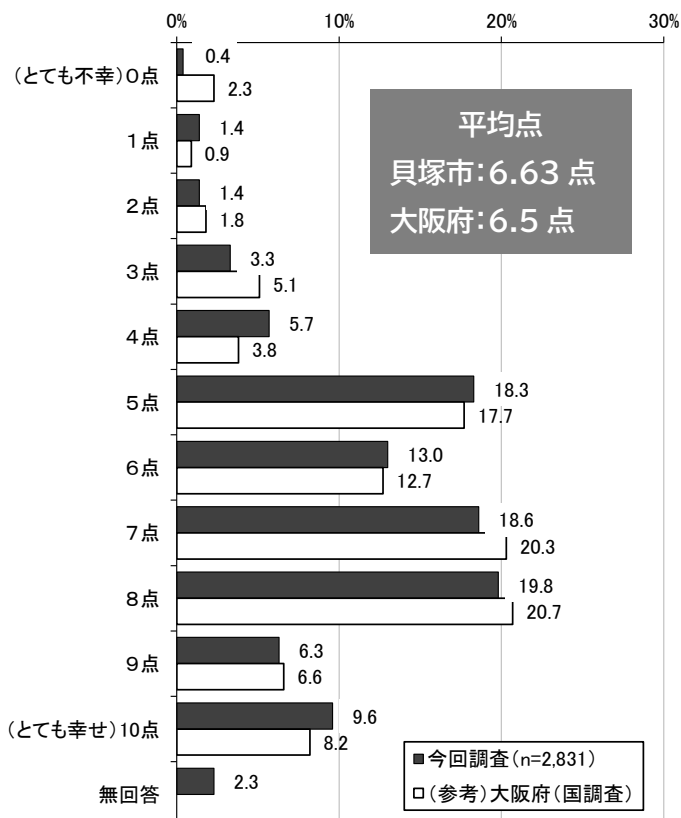
資料:「貝塚市公共施設等総合管理計画」(令和6年3月改訂)

② ウェルビーイングの向上

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指し、持続可能な社会の実現に向けた概念として注目されています。企業ではワークライフバランスの改善に向けた取組が進められ、市町村でも健康増進や生涯学習、地域交流の活性化などが推進されており、これからのまちづくりでは、一人ひとりのウェルビーイングの向上を図る視点が重要となっています。一方で、インターネット上での誹謗中傷やプライバシーの侵害、子どもも加害者や被害者として巻き込まれるSNS等におけるネットいじめなど、人権に関わる様々な問題が発生しています。また、女性の非正規雇用労働者の割合が男性に比べ高いことや女性管理職の登用率が低いことなど、女性活躍に向けた課題も残されています。加えて、ヤングケアラーへの支援や、自殺対策や孤独・孤立対策等の複数の人権問題を抱える方への対応など、新たな課題への対策が急務となっています。

市民アンケート調査では、幸せかどうか 10 点満点で聞いた設問の平均点が 6.63 点となっており、同様の調査による大阪府平均よりも高くなっています。多くの方が幸せを実感できるよう、自己実現や向上心を持つこと、人とのつながり、自分らしく生きることなど、幸福度を高めるための後押しや環境づくりが重要です。

■市民アンケートからの主観的幸福度(貝塚市)



資料: 第6次貝塚市総合計画策定のためのアンケート調査結果報告書

大阪府はデジタル庁 地域幸福度 Well-Being 指標より

4 第5次貝塚市総合計画における主な取組

将来像1 心豊かな人が育ちふるさとに誇りと愛着を感じるまち

妊産婦から子育て世帯まで切れ目なく支援するこども相談センターの設置や、子育て支援センターでの親子教室、子育て学習会等の実施、つどいのひろばを通じた親子の交流の場の提供など、子育て家庭を支える取組が進められました。

子どもたちへの教育では、教職員研修の充実や ICT 環境の整備、必要な人材配置等により、「知・徳・体」を総合的に育てていく教育環境を整えました。

生涯学び続けるための環境づくりとして、生涯学習講座では社会人や中高生、大学生の参加を促すことで参加者が増加しているとともに、公民館活動を通じた地域で活動する人材育成が進んでいます。

子どもたちの育ちをめぐる問題の多様化・複雑化、人生 100 年時代における生涯学習へのニーズの高まりの中で、誰一人取り残さず、学びの機会を提供していくことが必要です。

将来像2 誰もが地域で健やかにともに支え合うまち

健康づくりについて、妊娠・出産・乳幼児期から高齢期に至るまで切れ目なく、ライフステージに合わせた相談体制を確保するとともに、産官民の連携による健康イベント等の参加機会も増加しています。

介護予防事業への参加や地域でのふれあいの場が広がるとともに、在宅介護サービス事業所が整備され、高齢者が安心して生き生きと暮らせるまちになりつつあります。

障害がある人が必要とする相談やサービス等が充実し、教育、就労、文化活動など様々な機会を通じた社会参加、障害や障害のある人への理解が促進され、安心して暮らせる地域づくりが進みました。

市民主体の福祉活動について、ふれあい喫茶やいきいきサロンなどが地域に定着し、住民が集い、身近な相談の場としても広がっています。

自身の健康に関心が薄い層へのアプローチなど、主体的な健康づくりを促す支援により、健康寿命の延伸、介護予防につなげていくことが必要です。

将来像3 みんなでつくる安全・安心で快適に暮らせるまち

自主防災組織の増加や防災講座等の実施により地域における防災意識の向上に努めるとともに、防災拠点となる市役所本庁舎の建て替えや、避難所の開設に向けた準備、備蓄品の確保など、災害時に備えた整備による、防災力の高いまちに向けた取組を進めています。

貝塚警察署、防犯協議会、自治会等と連携し、各種啓発活動や、防犯カメラや防犯灯の設置促進、子ども見守り隊やスクールガードリーダーの配置など、市民が安全で安心して暮らせるよう、取り組んでいます。

コンパクトな市街地の形成と、地域公共交通網の充実、防災まちづくりの連携による『コンパクト・プラス・ネットワーク』を進めるため、「貝塚市立地適正化計画」を策定し、利便性が高く良質な市街地の形成を誘導しています。また、地域公共交通の維持・確保を図るための「貝塚市地域公共交通計画」を策定し、暮らしやすく訪れやすい環境づくりに向けた取組を進めています。

せんごくの杜では市民協働による里山再生が行われ、市街地における自然豊かな緑地として市民の憩いの空間となり、生物多様性の確保にも寄与しています。

気候変動を踏まえた自然災害への備えとして、市民や地域の防災意識の向上や避難所や防災拠点の整備、充実が必要です。また、安全で快適な市民生活のため、公共交通の利便性の確保や、道路、上下水道などのインフラの維持・保全、計画的な整備が必要です。

将来像4 ひとと地域の資源を生かしにぎわいを生み出すまち

創業支援や中小企業への経営支援などに取り組むとともに、せんごくの杜への企業誘致など、商工業の振興および雇用の確保を図りました。

農林業の振興について、農業祭の開催や大阪市内における貝塚市の農産物・観光イベントにおいて、本市の農産物の良さを消費者に理解してもらえるように直売を実施し、都市部の市民への知名度向上に努めました。

観光振興について、インターネットやSNSの普及により広く情報発信できる体制はできており、貝塚市地域ブランド推進協議会の取組などにより、知名度の向上に努めています。また、市内の歴史的遺産の周知が進み、行政のみならず地域の人々や各種団体による歴史的遺産の保存と活用を担う取り組みが活発化しています。

産業面では、新たな雇用を生み出す企業誘致を図るとともに、コロナ禍や物価上昇、コスト高、人材不足等への対応のためデジタル化の促進や働き方改革など、企業に対する情報提供や支援が必要です。また、インバウンド誘致のための環境整備やSNS等を活用した情報発信が必要です。

推進方策 市民とともに紡ぐまちづくり

講演会や講座、広報等を通じた啓発や各種相談などを通じ、地域における男女共同参画や女性の社会参画の促進や、コスモス市民講座や、かいづか国際交流協会（KAIFA）の取組などを通じた多文化共生の推進に努めています。

町会・自治会は防災や福祉など、住みやすい地域づくりを目指す活動をし、NPOは、児童、高齢者、障害者などへの福祉支援の向上や、地域におけるスポーツ振興など、良好なコミュニティの形成に大きな役割を果たしています。

重要な施策は市民説明会や意見交換会を実施するなど市民協働に努めるとともに、住民票等証明書のコンビニ交付やマイナポータルを使用した一部行政手続の電子申請の導入や、SNS やためまっぷ等の媒体を利用した活発な情報発信を実施しています。

人権・男女参画、多文化共生などの意識啓発、市民協働の促進に向けて、適切な情報発信や、参画の機会を設けることが必要です。また、行政のDXの推進による業務効率化、適正な公共施設マネジメント等による安定的な行財政運営を図ることが必要です。

5 市民の声

① アンケート調査

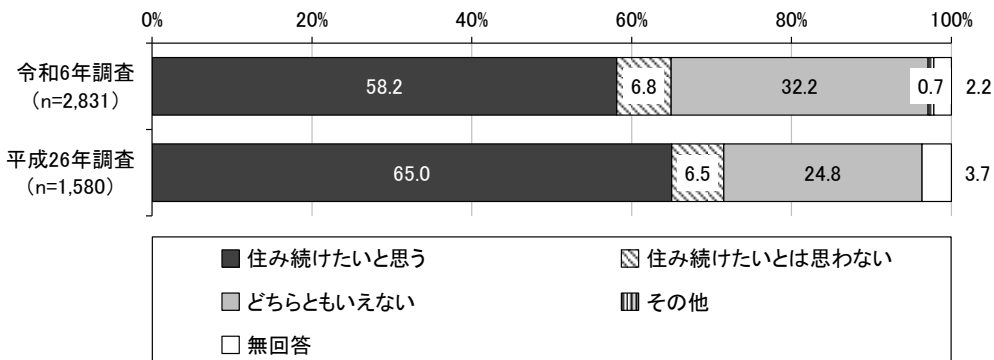
貝塚市をより住みやすく魅力的なまちにするため、貝塚市の政策やまちづくりについて、市民や小中学生のみなさんからご意見をうかがい、これからのまちづくりの方向を定めるための資料とすることを目的としてアンケート調査を実施しました。

■調査概要

調査対象	①市民：市内在住の平成21年4月1日以前生まれの4,000人(住民基本台帳から無作為抽出) ②小学生：市内公立小学校に通う3年生から6年生の2,802人 ③中学生：市内公立中学校に通う生徒全員の2,170人
回収状況	①市民：1,639人(有効回収率：41.0%)、1,192人(自由参加によるWEB回答分)合計：2,831人 ②小学生：2,016人(有効回収率：71.9%) ③中学生：1,548人(有効回収率：71.3%)

■市民アンケート調査結果 定住意向(前回調査との比較)

「将来にわたり貝塚市に住み続けたいと思うか」について、「住み続けたいと思う」と答えた市民は58.2%となっており、10年前の調査と比べて定住意向は低下している一方、「どちらともいえない」という回答が増えています。市民が「住み続けたい」と思えるような、利便性や住み心地の良さ、愛着を持てるまちを目指していくことが必要です。



■小中学生アンケート調査結果 どんなまちになってほしいか(上位5項目)

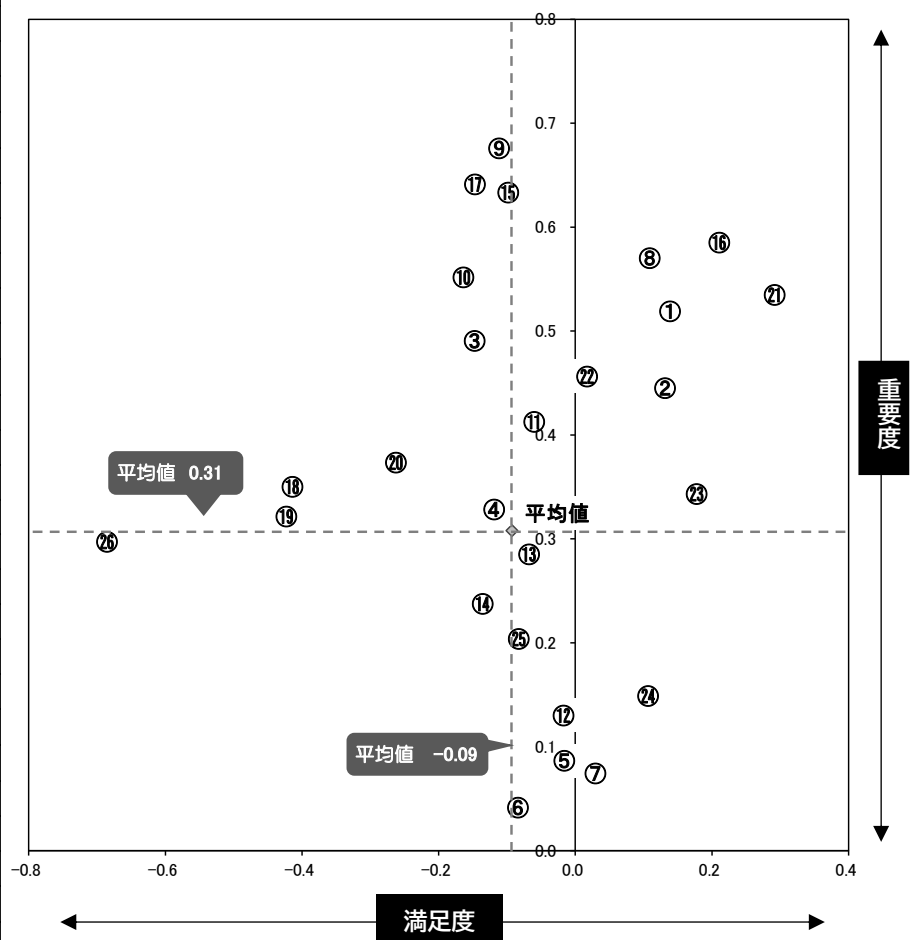
小中学生が思う、「将来どんなまちになってほしいか」について、『子どもからお年寄りまで、健康に暮らせて福祉が充実した「健康と福祉のまち」』や、『公園や緑が多く、暮らしやすい「住宅のまち」』『海や山などの自然を生かした「自然と共生するまち」』が上位の項目となっており、豊かな自然の中で、快適に健康に暮らせるまちが求められていることがうかがえます。

小学生		中学生	
子どもからお年寄りまで、健康で幸せに暮らせるまち	64.8%	子どもからお年寄りまで、健康に暮らせて福祉が充実した「健康と福祉のまち」	42.5%
公園や緑が多く、暮らしやすいまち	47.0%	公園や緑が多く、暮らしやすい「住宅のまち」	41.7%
海や山などの自然を大切にすまち	45.0%	海や山などの自然を生かした「自然と共生するまち」	36.0%
子育てと教育環境が充実したまち	24.5%	防災や防犯に力を入れる「安心・安全のまち」	26.2%
防災や防犯に力を入れるまち	22.7%	子育てと教育環境が充実した「子育てと教育のまち」	18.7%

■施策の満足度・重要度

施策分野別に満足度を「満足：2点」「やや満足：1点」「普通：0点」「やや不満：-1点」「不満：-2点」、重要度を「重要度・高：1点」「重要度・中：0点」「重要度・低：-1点」として点数化し、散布図に落とし込むと、満足度が低く、重要度が高い項目は「確かな学力の習得と豊かな心の育成」「青少年健全育成」「地域医療体制の充実」「高齢者の生活支援」「防犯対策」「地域特性に即した地域づくり」「快適な住環境の整備」「安全で便利な道路交通環境」となっています。

	満足度	重要度
平均値	-0.09	0.31
①子育て支援の充実	0.14	0.52
②待機児童解消	0.13	0.45
③確かな学力の習得と豊かな心の育成	-0.15	0.49
④青少年健全育成	-0.12	0.33
⑤生涯学習・ふるさとについての教育	-0.02	0.09
⑥芸術・文化振興	-0.08	0.04
⑦スポーツ振興	0.03	0.07
⑧生涯を通じた切れ目のない健康づくり	0.11	0.57
⑨地域医療体制の充実	-0.11	0.68
⑩高齢者の生活支援	-0.16	0.55
⑪障害のある方へのサポート	-0.06	0.41
⑫地域のつながりの強化	-0.02	0.13
⑬各種相談支援・相談窓口の充実	-0.07	0.29
⑭生活困窮者へのサポート	-0.14	0.24
⑮災害対応体制の強化	-0.10	0.63
⑯緊急時の消防・救急体制	0.21	0.59
⑰防犯対策	-0.15	0.64
⑱地域特性に即した都市づくり	-0.41	0.35
⑲快適な住環境の整備	-0.42	0.32
⑳安全で便利な道路交通環境	-0.26	0.37
㉑安全安心な水道水の供給	0.29	0.53
㉒下水道の整備	0.02	0.46
㉓ごみの減量化とリサイクルの推進	0.18	0.34
㉔自然環境・景観、生物多様性の保全	0.11	0.15
㉕省エネ・脱炭素の推進	-0.08	0.20
㉖商工業の活性化と商業施設の利便性向上	-0.69	0.30
㉗商工・農林業における後継者育成支援	-0.35	0.22
㉘雇用機会の確保と就労支援	-0.35	0.29
㉙観光の振興	-0.19	0.11
㉚歴史や文化の継承と活用	0.07	0.00
㉛人権尊重意識の向上	0.01	0.15
㉜女性の活躍推進	-0.13	0.26
㉝多文化共生のまちづくりの推進	-0.05	-0.08
㉞協働のまちづくりの推進	-0.23	-0.04
㉟貝塚市の魅力発信	-0.19	0.12



② ワークショップ

市民の想いやまちづくりのアイデアを計画に反映させるため、特に若い世代がこれからの貝塚市について自由に語り合う場となるよう、若者ワークショップ、子育て世代ワークショップを開催しました。

■若者ワークショップ実施概要

	第1回	第2回
参加者	チューター、カルバーシティ交換留学生、はたちの集い(OB 含む)、学生プロジェクト等 16名	14名
検討 テーマ	10年後の自分や家族を想像し、未来の貝塚市の姿を創造しよう	
	10年後のあなたと貝塚市の未来を考えよう (10年後の理想の自分、理想の貝塚市)	理想的な貝塚市の未来のためにできることを考えよう (まちづくりプロジェクトの企画)

10年後の貝塚市の姿	プロジェクト(☆は若者ができること)
<p>国際交流盛んなまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ■カルバーシティ市の小学校と貝塚市の小学校が姉妹校になってオンラインで交流したり、交換留学している ■市民全員に姉妹都市のことを知ってもらう 	<p>住みたくなる！行きたくなる！ 魅力いっぱいプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■だんじりを盛り上げる。外国人の参加者を増やす ■キャンプ場をより豊かにして旅行客を増やす ☆学プロなどでイベントを主催する、動画を撮り、SNSで発信する
<p>わくわくする町、貝塚！</p> <ul style="list-style-type: none"> ■住む人が自分の市に自信を持っている ■子どもがいても安心して暮らせる ■歩けばわくわくする場所と出会える！（遊ぶところ、カフェ） 	<p>人と人が支えあう 優しくあたたかなまちプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■まち全体で「子どもを大切に作る雰囲気」をつくる ■つげさん公園をつくる(遊具やコートも) ■勉強できる自習室を無料開室する ☆市民どうしで子ども用品のリユース活動をする
<p>家庭を築き子育てしたいと思えるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ■山側も海側も移動しやすくなっている ■子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいまち ■子どもが様々なことに挑戦できる(教育、医学、動物、スポーツ) 	<p>心身共に伸び伸び育つプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■土地を活用してバスケ、スケボー、公園でのボール遊び等をできるようにする ■子どものうちに多様性・政治など大人になっても役に立つことを学ぶ ☆10代～20代の若い世代が政治に興味を持ち、選挙参加率UPを図る
<p>WE LOVE "KAIZUKA" みんなから愛されるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子どもが積極的に活動し、好きなことを伸ばし、苦手なことに挑戦できる ■子どもたちのキャリア支援や子育て支援が豊富 	<p>「発展」プロジェクト ～来ぬならば、来させてみせよう、子どもたち～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■善兵衛ランドを拡張する ■リユースおもちゃ等で子どもが遊べる場をつくる ☆既存施設を活用した子どもの遊び場づくり
<p>行きたくなる貝塚市</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子どもたちや大人、外国の方など、様々な人々が利用しやすい施設が増える ■交流イベントが多く開催され、ほかの市、国からも人が来る ■交通がより便利になり、車を使わなくても移動しやすい 	<p>空き家プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■空き家をキレイに、自然を生かしたリノベーションを行い、安く宿泊・レンタルできる場やモデルハウスにする ☆若い人や学生も多様な経験ができる場として活用する ☆リノベーションした空き家は SNS で発信する

■子育て世代ワークショップ実施概要

参加者	子育て中の保護者 18名
検討テーマ	若者・子育て世代から選ばれるまち かいづか (貝塚市のいいところ、課題、まちづくりプロジェクトの企画)

貝塚市のいいところ

自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> ■海も山もあり、自然がたくさん、公園がある、せんごくの杜がある ■都会ではないが田舎でもない
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもがのびのび過ごせる・遊べるところが多い、プレーパークがある ■安心して子育てができる、子育て支援が手厚い(すすく応援隊、赤ちゃん訪問など)
地域の人・雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ■人が温かい、女性が元気 ■だんじり文化、伝統的なお祭りがある、公民館活動が活発
交通・利便性	<ul style="list-style-type: none"> ■難波、空港へのアクセスが良い ■水間鉄道がある
行政・サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■子育て支援(すすく応援隊・補助金等)、出産育児の給付が手厚い ■キャラクターのつげさんがかわいい

プロジェクト(☆は市民ができること)

<p>USK(ユニバーサルスタジオカイツカ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■1日過ごせる複合世施設 ■シエルビア立体駐車場横の土地活用 	<p>儲かる農業「つげさん米」「つげさんワイン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■農業の企業化(公務員化)、農業に関連する学校をつくる <p>☆道の駅をつくる、公共施設への直販</p>
<p>パクってなんぼ！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ■すべての年代が集まる施設があれば地域が賑わう ■図書館・カフェ・ホール・自習スペース併設 ■お年寄り子どもが顔見知りになる場 <p>☆クラウドファンディング、貝塚市について考える場をつくる</p>	<p>貝塚 LOVE♡を育てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子ども・先生・地域がイキイキとした学校 <p>☆みんなが先生(新1年生のお手伝い、読み聞かせ、昔遊びのお手伝い)</p> <p>☆放課後の子どもの居場所(地域で見守る)</p>
<p>プレパだよ！全員集合～！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ■校区に1つずつ、誰でも参加できる常設プレーパーク(平日、放課後も)の設置 <p>☆自分たちにできることを持ち寄る</p> <p>☆口コミ(SNSを含む広報活動)</p>	<p>幼と老のマッチングで HAPPY♡</p> <ul style="list-style-type: none"> ■老人ホームとこども園の併設(スタッフ共有) ■制作・手遊びを一緒にできる <p>☆あいさつをする、名前・顔を覚える</p> <p>☆コミュニケーション</p>
<p>パパママ1年生プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■10年後も20年後も市民みんなが学び続ける子育て術 ■「ペアレントトレーニング講座」の実施 <p>☆幼稚園・保育園での講演会、絵本の作成</p> <p>☆受講者の声を届ける(インスタ、チラシ)</p>	<p>給食安心安全プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■校区の畑でとれた野菜を使った給食の提供 <p>☆小学校の保護者で農家からオーガニックで給食をしようという動きあり</p>

第2部 基本構想

第1章 貝塚市の将来の姿

1 めざすまちの将来像



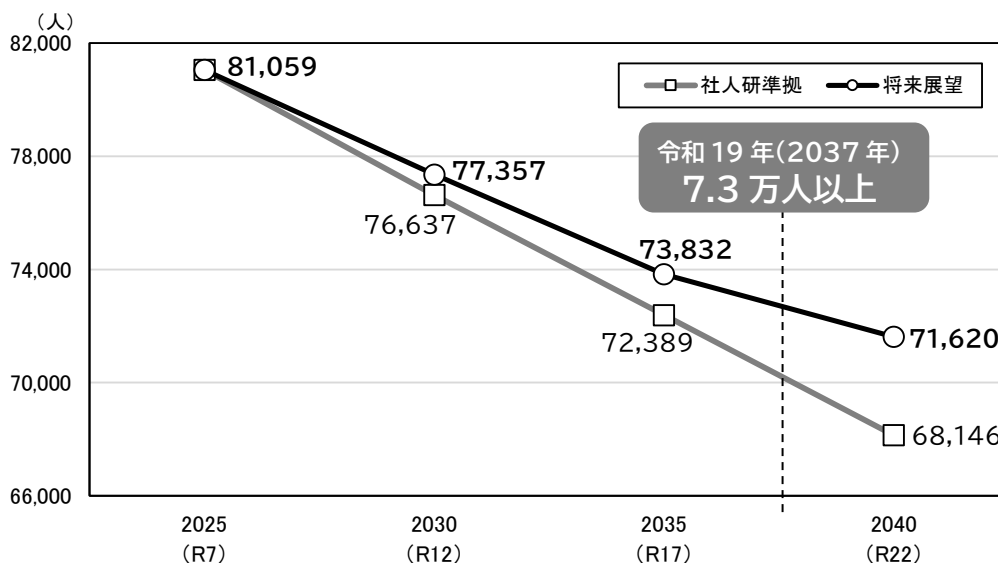
《将来像に込めた思い》

2 目標人口(人口ビジョン)

令和 19 年(2037 年) **7.3 万人以上**

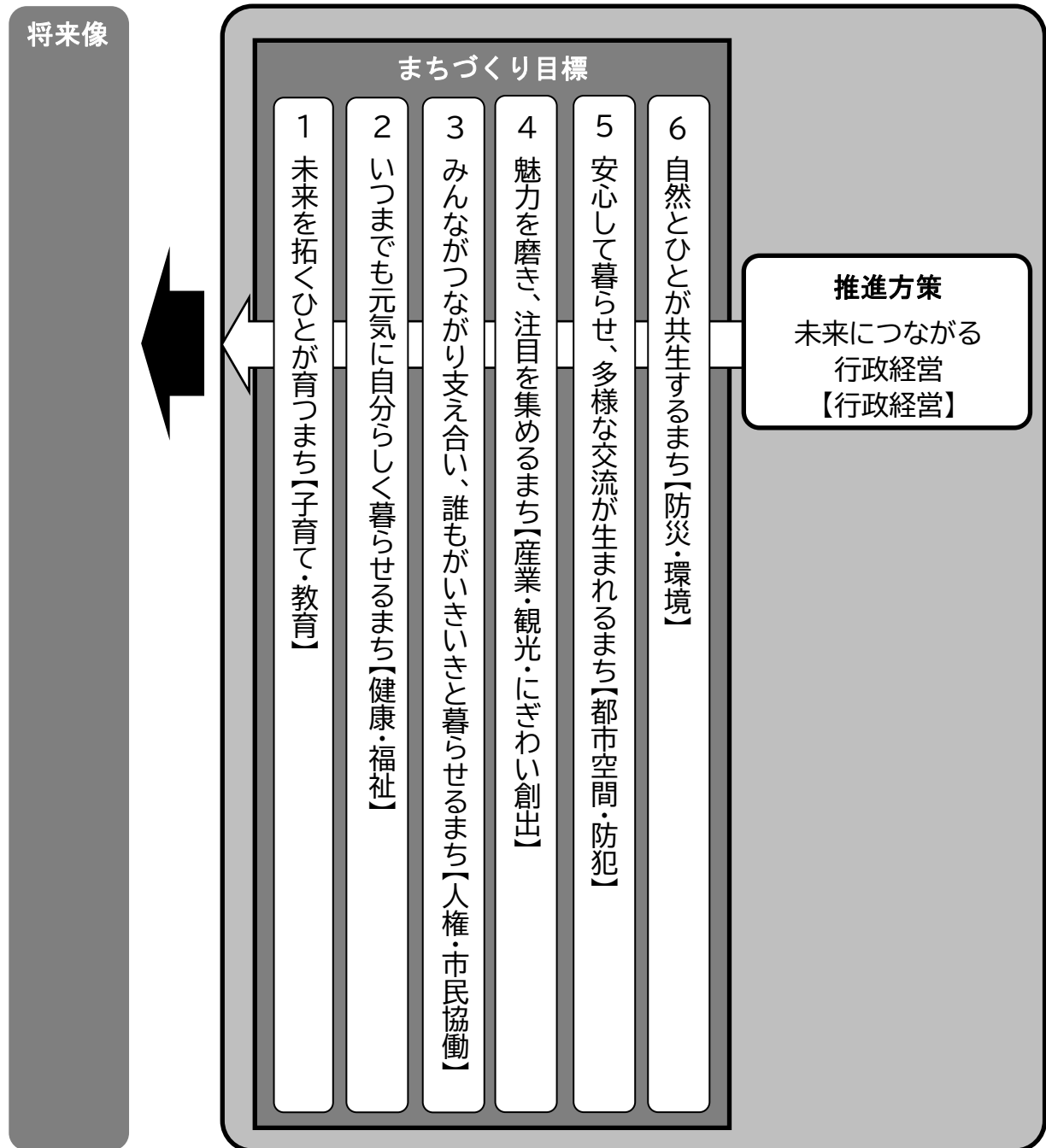
本市では近年社会増減が改善傾向となっていることから、『子育て世代を中心とした転入超過』『進学・就職世代の転出超過の縮小』などにより、この傾向を維持・向上させ、「令和 22 (2040) 年に純移動数を性別年代別全体でプラス」にすることで社会増減のさらなる改善をめざします。また、社会増減の改善により若年女性人口の減少率を改善することで、一定の出生数を維持し、自然減の縮小を図ります。これらにより目標人口は令和 19 年 (2037 年) に 73,000 人以上とすることをめざします。

■本市の将来人口の展望



3 まちづくり目標と推進方策

めざすまちの将来像の実現に向けて、分野ごとの6つのまちづくり目標とそれらを下支えする推進方策を置き、計画的に取組を進めます。



まちづくり目標1 未来を拓くひとが育つまち【子育て・教育】

まちづくりのキーワード		
居場所づくり	地域ぐるみの子育て支援	誰一人取り残さない
学力向上	愛着、誇りの醸成	

主な現状・課題
<ul style="list-style-type: none">・子育て家庭の孤立化が進み、不安や悩みが多様化しています。・共働きが増加するなか、子どもが安全安心にすごせる居場所が求められています。・児童虐待やいじめの問題など子どもへの人権侵害が深刻化しています。・ひとり親家庭の多くは経済的な困難、社会的孤立など様々な生活課題を抱えています。・予測困難な時代を生き抜く力を育む先進的な教育改革が求められています。・子どもたちが主体的に学ぶ貝塚学の取組を通じ、郷土愛や誇りを育む必要があります。・子どもをめぐる人権課題は多様化・内在化・深刻化しており、すべての子どもが互いを尊重し合うことが、難しい状況になっています。

まちづくりの方向性
<ul style="list-style-type: none">・公的な関係機関や、地域の子育て支援団体、社会福祉法人、NPO 法人などの民間団体と連携した子育て支援を行います。・孤独や不安を感じることなく有意義に過ごせる子どもの居場所づくりに努めます。・保健・福祉・教育などの関係機関との密接な連携による児童虐待の防止、早期発見、早期対応に取り組めます。・ひとり親家庭への交流の場の提供や総合的な相談窓口の充実を図ります。・次世代に向けた先進的な取組を研究しようとする学校園を助成しその成果を普及します。・貝塚学に用いる教材や手法の更新に努め、体験的な学習やイベント等により提供します。・学校では、様々な背景をもつ子を含めたすべての児童生徒が、互いの違いを尊重し、協働的な学びや交流を通じて成長し合えるような取組を進めます。

施策	
施策1 子育て環境の充実	施策3 学校教育の充実
施策2 子育て支援の充実	施策4 人権教育の推進

まちづくり目標2 いつまでも元気で自分らしく暮らせるまち【健康・福祉】

まちづくりのキーワード		
健康寿命の延伸	生きがい	自分らしく
個人の幸福度向上	セーフティネット	

主な現状・課題
<ul style="list-style-type: none">・健康づくりに関心のない方たちへの働きかけが必要となっています。・市立貝塚病院では、一部の診療科で医師不足等により、特に救急医療体制に課題があります。・救急需要が高い水準で推移しています。・地域のつながりや近所づきあいの希薄化が進む中、見守り、助け合いができる社会の形成が求められています。・潜在化する相談者を早期に把握する必要があります。・高齢者のみ世帯や認知症・軽度認知障害(MCI)の方の増加が見込まれています。・障害の多様化に対応する重層的な支援体制の整備が必要となっています。・生活困窮の要因が多様化しており、個別課題に合わせて、継続的につながり続ける支援体制が必要となっています。

まちづくりの方向性
<ul style="list-style-type: none">・ライフステージに応じた生活習慣の改善を支援するとともに、健康づくりの取組みが継続される仕組み作りを進めます。・市立貝塚病院の医師、看護師等を確保し、二次救急体制を充実させます。・「救急安心センターおおさか(＃7119)」の利用促進を図るとともに、救急車の適正利用について啓発活動に取り組みます。・地域住民主体の居場所を支援するとともに、災害時に地域で連携して支えあう「共助」の仕組みづくりに取り組みます。・潜在化する支援が必要な方を地域で発見できるようアウトリーチを強化します。・高齢者が身近な場所で主体的・継続的に健康づくりや介護予防等に取り組むことができるよう支援します。・権利擁護・意思決定を支援する体制の充実を図ります。・介護保険・障害福祉サービス提供事業所等の社会資源の確保と福祉を支える人材の確保・育成を支援します。・障害や障害のある人に対する理解促進とボランティアの養成・確保を図ります。・さまざまな相談の機会を確保し、諸制度の効果的な活用と自立促進を図ります。

施策	
施策5 健康づくり、医療・救急体制の充実	施策8 障害者福祉の充実
施策6 地域福祉の推進	施策9 生活困窮者自立支援の充実
施策7 高齢者福祉の充実	

まちづくり目標3 みんながつながり支え合い、誰もがいきいきと暮らせるまち

【人権・市民協働】

まちづくりのキーワード		
みんな違ってみんないい	わがこと意識	社会的幸福度の向上
共創		

主な現状・課題
<ul style="list-style-type: none">・多様な性のあり方が尊重される共生社会の実現が求められています。・互いを尊重し合い、一人ひとりの個性と能力が十分に発揮できる社会の実現が求められています。・在住外国人が地域に馴染み、生活しやすい環境の整備が必要となっています。・市民が主体となるまちづくりをさらに進める必要があります。・市民の多様な学びの場の広がりや世代間交流の充実が求められています。・スポーツ・文化における時代やニーズに応じた取組みや環境の整備が必要となっています。

まちづくりの方向性
<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりが人権意識を向上させ、ともに活動することにより互いを認め合い、「ひとに優しいまち」の実現に繋がります。・社会に内在するジェンダーギャップやアンコンシャスバイアスに向き合い、多様なすべての人一人ひとりのライフスタイルに合わせた多様な働き方を選択できる職場環境の整備を支援します。・異なる文化を理解し、尊重するための取組を支援し、多文化共生のまちづくりを推進します。・魅力ある未来のまちづくりに積極的に参画する人材を育成します。・市民が共に学ぶ機会を設けるとともに、子供から高齢者まで世代を超えて楽しく交流できる講座やイベントを展開します。・誰もが日常的に気軽にスポーツに親しむことができ、文化・芸術に触れられる環境づくりに取り組めます。

施策	
施策 10 人権尊重の推進	施策 13 生涯学習の推進
施策 11 多様性が尊重される社会の実現	施策 14 スポーツと文化活動の推進
施策 12 多文化共生の推進	施策 15 市民参画、協働の推進

まちづくり目標4 魅力を磨き、注目を集めるまち

【産業・観光・にぎわい創出】

まちづくりのキーワード		
厩もにぎわうまち	貝塚ならではの	地の利を活かす
魅力の再発見	知名度向上	継続的なつながり

主な現状・課題
<ul style="list-style-type: none">・市内事業所では、人口減少により労働力が不足しています。また、農林業においても担い手や後継者不足が進んでいます。・本市は府内各市と比べると知名度が低く、また、近世以降に唯一の自治権が認められた寺内町や多くの歴史遺産等を有していることを活かしたシビックプライドの醸成が必要となっています。・本市はコンパクトな市域にポテンシャルの高い地域資源を有しており、それらを観光資源として十分活用するための取組みが必要となっています。

まちづくりの方向性
<ul style="list-style-type: none">・本市の玄関口となる主要駅周辺や幹線道路沿線へ地域における経済活動を牽引する企業等を重点的に誘導し、都市拠点、生活拠点の充実を図ります。・魅力ある農林業を構築し、新規従事者の受入体制の構築など多様な担い手の確保・育成に努めます。・定住人口を増加させるために、まずは本市の知名度を上げ、本市を訪れる交流人口を増やし、さらに継続的に本市を応援いただける関係人口を増やし、移住・定住の増加につなげます。・市民や団体、事業者とともに、観光資源や特産品、歴史・文化資源をはじめとした地域資源の磨き上げや創出に努め、「かいつか」の魅力を積極的に発信するとともに、市民自身が「かいつか」の魅力に気づき、シビックプライドを育み、自ら発信することを促進します。

施策	
施策 16 産業の振興	施策 20 観光の振興
施策 17 農林業の振興	施策 21 歴史遺産の保存と活用
施策 18 雇用対策	施策 22 まちの魅力の発信
施策 19 移住・定住の促進	

まちづくり目標5 安心して暮らせ、多様な交流が生まれるまち

【都市空間・防犯】

まちづくりのキーワード	
人同士が交わり、憩える空間	人中心の空間
暮らしやすい住環境	インフラ等の戦略的維持管理

主な現状・課題
<ul style="list-style-type: none">・市民アンケート調査や児童生徒アンケート調査では、今後のまちづくりの方向性について「公園や緑が多く、暮らしやすい『住環境に優れたまち』」の回答が多く、駅周辺などの商店の活性化や公園の整備等含め、魅力的な都市空間づくりを望む声が多数挙げられています。・高齢化の進展により、免許返納後に外出や社会参加が困難となる市民の増加が見込まれ、また健康寿命の観点からも地域公共交通網の充実が必要となっています。・本市では街頭犯罪が減少している反面、特殊詐欺による被害が増加傾向にあり、市民の防犯意識向上に向けた取組が必要となっています。・災害に強い上下水道管路網の整備や汚水処理人口普及率の早期向上が必要となっています。・近年の気候変動による浸水被害を防止・軽減するための対策が急務となっています。

まちづくりの方向性
<ul style="list-style-type: none">・南海貝塚駅周辺をはじめとする都市拠点において、市民が憩える空間の創出、空き店舗や古民家を活用した賑わいのある滞在型の拠点形成に取り組みます。・公共交通沿線に居住を誘導し人口密度の維持を図り、水間鉄道を基軸とした地域公共交通網の充実による移動の利便性を高めます。・SNS 等での特殊詐欺情報の定期的な発信や、関係機関と連携した街頭啓発により犯罪被害を抑制します。・計画的な水道老朽管の更新とともに耐震化を図ります。また、下水道整備の効率的な区域での早期整備に取り組むと共に非効率な区域での合併処理浄化槽の普及促進に努めます。・雨水管理総合計画に基づき、市民、事業者、及び市が連携・協働して一体となり浸水対策を推進します。

施策	
施策 23 魅力的な都市空間づくり	施策 25 防犯・交通安全の推進
施策 24 交通環境の整備	施策 26 上下水道事業の運営

まちづくり目標6 自然とひとが共生するまち【防災・環境】

まちづくりのキーワード

自らを守るための備え

助け合い

環境価値の再認識

次世代へつなげる環境意識の向上

主な現状・課題

- ・地域における自主防災力の向上やインフラ施設の防災・減災対策等、災害に備えるための更なる取組みが必要となっています。
- ・温室効果ガス排出量やプラスチックごみの削減に向けた取組みの強化と、環境保全意識の向上が必要となっています。
- ・廃棄物の総排出量に対するリサイクルの割合を高めるため、再資源化に向けた分別品目の細分化と資源ごみの回収が必要となっています。

まちづくりの方向性

- ・住民、企業・民間団体等、公共機関が災害を自分事として捉え、それぞれの責務に基づいた備えを行うよう啓発します。
- ・資源循環型社会の構築のため、産学官等の多様な主体が互いに連携、協働し、廃棄物の再資源化や再生可能エネルギーの活用に向けた取組みを進めます。
- ・地域住民や企業・民間団体等と連携した河川や海岸の清掃活動をはじめとする自然環境の保全・再生活動を支援します。また、自然遊学館など、教育分野と連携した環境学習や啓発活動により環境保全意識の向上に努めます。

施策

施策 27 地域防災、消防の強化

施策 29 循環型社会の構築

施策 28 環境の保全

推進方策 未来につながる行政経営【行政経営】

まちづくりのキーワード

市民サービスの維持・向上と合理化の両立

前例にとらわれない行政経営

広域・官民連携

主な現状・課題

- ・高齢化により行政需要が高まるとともに、生産年齢人口の縮小により、働き手、税収の減少が予想される中、安定した税収確保の取組みやDX推進による合理化、公共施設の長寿命化、職員の能力向上などによる財政抑制の取組みが必要となっています。

まちづくりの方向性

- ・DXの推進により、「確実性」「遠隔性」「迅速性」など市民サービスの向上を図るとともに、合理化の実現を促進します。
- ・効率的な事務事業の執行を行うとともに、企業誘致の推進による市税の増収、市のPRによるふるさと納税の増額など、歳入確保に努め、持続可能な行財政運営を推進します。
- ・公共施設の長寿命化を図るとともに、広域連携・官民連携による効率的な施設維持・運営を行います。
- ・主体的に行動し、かつ、高い能力を発揮できる職員の育成に努めます。

施策

施策 30 行政 DX の推進

施策 32 公共施設等の維持・管理

施策 31 行財政運営

施策 33 次代を担う職員の育成